

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：黒目川に親しむ会
代表者：代表代行 小林 一己
URL :

27A-37

1. 活動が必要とされた状況

2019年の大水以降、黒目川では年々アユが減り、2024年は春先から特にひどくなりました。その理由が、度重なる出水で川底の浮石が砂や土に埋もれてしまい、浅瀬の浮石に産卵するアユには好ましくない環境になっていると判断。そこで、川底の埋もれた石を掘り起こし、洗って産卵しやすい環境を整備。この川底石の掘り起こしを川耕しと言います。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- | | | |
|----------------|--------------|-------------|
| ① 朝霞市立第十小学校協 | 10月13日（日）10人 | 産卵確認日10月19日 |
| ② 朝霞市立第三中学校協 | 10月20日（日）10人 | 産卵確認日10月26日 |
| ③ 朝霞市溝沼郵便協の新高橋 | 10月27日（日）20人 | 産卵確認日11月2日 |

まず、アユが産卵しやすい場所を選んで、そこにアユが産卵していないか、確認します。アユの卵があれば、そこは耕す必要がありません。産卵しているところを耕せば、卵のふ化を邪魔することになります。手順は次のとおり。

- ① 石と流れを読む。早瀬で一定の水深があること。
- ② エリア（7m×7m）を決め、1mくらいの杭を立てる。
- ③ アユの卵がないか川底の石を拾い確認する。
- ④ 手道具で川底の石を掘り起こす。深さは石一個分。
- ⑤ 掘り起こした石をポンプ放水で洗う。
- ⑥ 後日産卵がされたか確認する。
- ⑦ ③④⑤の作業は、隙間なく行うため、横一列に並んで行います。日頃の魚類調査メンバーで実施。



3. 活動の成果



産卵のようすは、三会場とも卵がほとんど見当たらず、わずかに確認できました。【写真左】
2024年産卵ふ化した仔アユが、海で育っているか確認をしました。
黒目川で孵化した仔アユは、黒目川→新河岸川→隅田川→東京湾に流れます。

2025年1月2日に、隅田川の下流、東京都中央区月島で成長した仔アユが、シラスアユになっている様子を確認しました。【写真右】

毎年観察している方の話では、今期はシラスアユが多いとのこと。川耕しの効果は不明ですが、シーズンが楽しみです。



4. 今後に残された課題

アユが群れて盛んに産卵行動が行われている場所は、流れが速く、石が浮いて石がきれいな場所です。どういう場所が、アユの産卵適地にできるか、今活動を次年度に活かしていきます。